

東京大学大学院人文社会系研究科 次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣 帰国報告

最終報告提出日： 2013. 01. 09.

氏名： 朱洪奎

所属先： 韓国朝鮮文化研究

派遣形態： PD枠

研究課題名： 高句麗遺跡・遺物に関する最新成果の調査

(1) 派遣先の基本情報

韓国安養市に所在する中部考古学研究所 金武重所長。

(2) 派遣期間

出発日：2012年10月9日

帰国日：2012年12月21日

総日数：総72日

* 主な研究成果

(1) 当初の計画の概要：

今回の調査は朝鮮半島から発見された高句麗及び高句麗系の遺跡及び遺物に関する最新の研究成果を調べることであった。高句麗遺跡の場合は近年、活発な調査が行われている臨津江流域の高句麗遺跡に関する見学や、ソウルにある高句麗の要塞遺跡に関する新たな発掘調査を見学することにより、高句麗考古学研究の最新の成果を把握することが目的であった。さらに、既往の調査で報告された高句麗系遺物に関する調査も行うことにした。

(2) 実際に達成された成果：

今回の調査は派遣先である中部考古学研究所のご配慮をうけて、一般人の出入りができない臨津江流域にある高句麗の徳津山城の発掘調査現場を見学することができた。見学により高句麗山城の築城方法に関する知識を増やすことができた。さらに、徳津山城には高句麗の住居址が発見されていて、その特徴を確かめたことは1つの成果としてあげられる。

徳津山城の発掘現場の見学のみならず隣接する高句麗の要塞である東波里遺跡に関する地表調査をすることができた。高句麗の瓦や土器と考えられる遺物を数多く見ることができた。特に、平瓦の場合は既往の研究では報告されていなかった製作技法により作られたものを確認したことは大きな成果である。

その他にも高句麗系と言われる馬具や装身具について国立江陵原州大学博物館、蔚山原子力発電所内の発掘現場、慶北大学校、嶺南大学校博物館などの所蔵機関を中心に調査を

行った。高句麗文物の地域拡散と影響を考えることができる遺物があることを確かめたことも成果の1つとしてあげられる。

(3) 今後の研究展望：

今まで高句麗の山城の築城方法については研究が少なかったが、新たな遺跡に関する調査が進むに伴い、高句麗山城に関する研究が活発になると考える。

既往の研究では高句麗の住居址の発見例が少なかったため、研究成果が少なかったが、今回の見学した遺跡に関する調査により高句麗住居址の研究が活発になる可能性がある。

高句麗考古学研究のなかで最も活発な研究は瓦研究であるが、今回の地表調査で、新たな製作技法により作られた高句麗の瓦が存在する可能性が極めて高い。高句麗瓦研究をより進めることができると考えられる。

今回の調査で得られた情報により高句麗の装身具の地域拡散・伝来に関する研究も進めることができると考えられる。